



檢使心得一件書

成未/89

73
6458



78
6458

一 檢使心得之一件

一 行倒との美人殺御身等之候旨云 御後書

一 行倒愛死人捨子迷ひ子 芝口札掛場 該人病氣と云云云々

一 江戸町との加りい一件 檢使之候旨伺

一 行倒死人西斗伺 並諸書物

一 空名との病死見分吟味

一 水死人

一 焼死人 火見分

一 愛死人

一 相對死 鑑

一 御身

大正十一年三月二十六日
成中惟精

一 唯摩羅文日原例書

一 於子例 同前北局

一 捨馬例

一 人之喜と憂曲の上殺害の事

一 非人行倒見者

追加

一 捨便心得之明細 海定法

一 是人誰人之儀月法行書

一 捨便心得之儀月法行書

捨便大畧心得書

一 捨便之儀村方の辨書に願披合少く其願之地既江戸海人

一 脚全日浪と定事と云出之申

一 村方の儀と云願披合申方月与比先願之申

一 村方の若此申願披合人一同之會方村海人自之會願披合及

一 申方為願披合可帰 但方方願披合人中申願披合申方申

一 村方の若此申願披合人一同之會方村海人自之會願披合及

一 後名と申願披合申方申願披合人申願披合申方申願披合

一 了願披合申方申

一 願披合申方申願披合申方申願披合申方申願披合申方申願披合

一 別して願披合申方申

と連 此般得とてんを修養すに於て功不立今もてんを修養すに
ありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
非人神を修養す人神を修養す人神を修養す又てんを修養すは業を
修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養す

一 此書に在る戸一のりもてんを修養すに功不立今もてんを修養すに
ありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
非人神を修養す人神を修養す人神を修養す又てんを修養すは業を
修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養す

一 此書に在る戸一のりもてんを修養すに功不立今もてんを修養すに
ありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
非人神を修養す人神を修養す人神を修養す又てんを修養すは業を
修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養す

一 自書人との修養すに功不立今もてんを修養すにありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
ありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
非人神を修養す人神を修養す人神を修養す又てんを修養すは業を
修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養す

一 此書に在る戸一のりもてんを修養すに功不立今もてんを修養すにありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
ありぬるに村より一歩も歩かずしては海の中にもてんを修養す
非人神を修養す人神を修養す人神を修養す又てんを修養すは業を
修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養すは業を修養す

珍子遊りの事

支那の珍子遊りの事... 此の如く遊ぶ事... 其の如く遊ぶ事...

但珍子遊りの事... 十日間の事...

珍子遊りの事... 此の如く遊ぶ事...

珍子遊りの事... 此の如く遊ぶ事...

此の如く遊ぶ事... 此の如く遊ぶ事...

石四條 前田の事

芝口 北城場 事

芝口 北城場 事... 此の如く遊ぶ事...

此の如く遊ぶ事... 此の如く遊ぶ事...

所詮人の心をたすむは病人に於ては治すべし即ち心を通ずるは
村も病人の病を治すは治すべし即ち心を通ずるは

但海人の心をたすむは治すべし即ち心を通ずるは

所詮人の心をたすむは治すべし

一 建中よりあるは治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

一 治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

治すべし即ち心を通ずるは

心身成

書

書の如くして書かれしこと

乙酉

沙見方へ書

一 沙見方へ書

但多岐之十二感信ありて面辨は白く申内より大徳より
白果^白なる者元落しく日口年書体堅固し安んじ延び
外多岐河へて申思ふに概一切の事

右に高月より申内より信守前より申内より沙見
死人多しと申内より申内より申内より申内より
申内より申内より申内より申内より申内より
申内より申内より申内より申内より申内より

甲 二月十日

沙見方へ書

三人

同患者後

高河代屋下

何也何邪

何也

金三橋中

申内より

高河代屋下
申内より申内より申内より申内より申内より
申内より申内より申内より申内より申内より

高河代屋下
申内より申内より申内より申内より申内より
申内より申内より申内より申内より申内より

右看用之品

右海國黃瑤子能平

口口海國黃瑤子能平

日惠深銘入

口口海國黃瑤子能平

日海色深銘

口海國黃瑤子能平

西海國黃瑤子能平

三三

白海國黃瑤子能平

三三

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右海國黃瑤子能平

右様之書を承りては 御事不承同之

子丑月

野田信五郎下

子丑月

書向之書 諸様之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

子丑月

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

子丑月

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

子丑月

書向之御事 承りては 御事不承同之

書向之御事 承りては 御事不承同之

リ
依
之
節

右の如く時法は... 世に... 依之節

此の如く... 依之節

此の如く... 依之節

此の如く... 依之節

此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ...

一、その書

此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ...

醫師... 此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ...

此の書は高き

一、その書

此の書は高き

一、その書

此の書は高き

一、その書

此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ... 此の書は高き... 凡そ...

二階の女子は一向の御供養を承り、今更に入道願を成し、其の御供養の
怪談も亦少くあれども、

右名

信平 御供養

右法喜前總合

二階三階

一人御供養

伊右衛門

一人御供養

中右衛門

右の如く信平は、其の御供養を承り、今更に入道願を成し、其の御供養の
怪談も亦少くあれども、

信平は、其の御供養を承り、今更に入道願を成し、其の御供養の
怪談も亦少くあれども、

右名

柳之丸

右の如く信平は、其の御供養を承り、今更に入道願を成し、其の御供養の
怪談も亦少くあれども、

何れも此の如くは... 御座り申す

江戸浅草田所

御座り申す

御座り申す

御座り申す

御座り申す

御座り申す

右の如くは... 御座り申す

一

右の如くは... 御座り申す

右の如くは... 御座り申す

文正二年七月

早川、高直

御座り申す

御座り申す

御座り申す

武州三郡海城村持之...

新田代
武州三郡

一 拾遺馬三定

海城村

他...

右...

持...

丑九月

新田代

持...

持...

...

丑九月

...

...

...

何人思之

右何人中日

高下之富貴を言ふは、世の中にも、
一は、財力、二は、才力、三は、徳力、
此れ三才の富貴なり。

財力も、才力も、徳力も、
皆、人の手によるものなり。

財力は、運命の富貴なり。
才力は、学問の富貴なり。

徳力は、徳行の富貴なり。
此れ三才の富貴なり。

財力は、富貴の富貴なり。
才力は、富貴の富貴なり。

徳力は、富貴の富貴なり。
此れ三才の富貴なり。

財力は、富貴の富貴なり。
才力は、富貴の富貴なり。

徳力は、富貴の富貴なり。
此れ三才の富貴なり。

財力も、才力も、徳力も、
皆、人の手によるものなり。
財力は、運命の富貴なり。
才力は、学問の富貴なり。
徳力は、徳行の富貴なり。
此れ三才の富貴なり。

は彼中千々粒之山は高嶺也之州人移住之師地也... 乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云...

右道少師也...
如何丹河

光河

右道少師也... 乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云...

右道

如何丹河

光河

如何丹河

乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云... 乃其の月漢高祖... 亦云云...

何〜〜〜〜〜

此段地信何〜〜〜〜の他事

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

但其人〜〜〜〜〜

此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

但其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

一 此ら其人〜〜〜〜〜

但其人〜〜〜〜〜

〜〜〜

尾張政願分

尾丹抄部抄行記

高尾抄部

抄 中口

抄 中口

抄 中口

抄 中口

抄 中口

抄 中口

抄 中口

抄 中口

抄 中口

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

尾丹抄部抄行記

新編五人犯

流 流 流 流

右代官馬代 (白)

以月 經山 山ノ口

右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合
ト世

一 右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

右代官馬代 (白)

一年 (白)

右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

一 三ノノ者流一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

何一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

又 流ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

右に世一ト世一ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

一 一年ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

一 一年ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

一 一年ト世一人犯一内馬代ト世信如人ト流ト世合

一 春あけのよきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと

山中のよきとふらふらと

一 山あけのよきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと

一 山あけのよきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと

一 山あけのよきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと

一 山あけのよきとふらふらと日あけのよきとふらふらと

一 山あけのよきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと
よきとふらふらと日あけのよきとふらふらと

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...
一 今人遠くちぬきありともあふ一切の事...

拾遺定法

- 一 狂人 一 負人 一 痴人
- 一 怪我人 一 首途 一 行倒
- 一 水死 一 燒死 一 捨死
- 一 捨子 一 酒狂人 一 乱心
- 一 相對死 一 喧嘩
- 一 右ノ外兩留リ歎有
- 一 右ノ事場見
- 一 捨死如シノ事ヲ知ル所ノ人ト云フ事ヨリ連ル事
- 一 將ニ事ヲ了メテ事
- 一 湯所ノ事ハ丹子ノ連ル事ト云フ事一併ニ合シテ事海ノ人ト云フ事
- 一 右ノ事ヲ了メテ事

侍 足控 中回 出家 法人 山伏

神主 坊主 尼 比丘尼 惣髪 鬘草

町人 浪人 百姓 袖乞 物賣 非人

之者 男 女 女子 男子 生死 年數

恰好 人相 看款 新也

右ノ事ヲ了メテ事ハ海ノ人ト云フ事一併ニ合シテ事海ノ人ト云フ事

切殺 自害 打殺 打擲

捨死 首途 水死 燒死 行倒

右ノ事ヲ了メテ事ハ海ノ人ト云フ事

右ノ事ヲ了メテ事ハ海ノ人ト云フ事一併ニ合シテ事海ノ人ト云フ事

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

但... 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 如... 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 侍... 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 亦對其... 然其... 亦對其... 然其...

一 出書より故書を在 新編の村々人等書ありしを自著の法を全

て改定

一 場町町政司取入の事あり

一 焼死人の事あり

一 牛馬怪の事あり

一 焼傷給ふ事あり

但家敷の事あり

都立校の事あり

但村の事あり

一 秋の口書

水地

一 鳴の書

一 見の書

一 川合の口書

但海防の事あり

一 西原の口書

一 双の口書

一 那の口書

右の事あり

一人の事あり

道中の事あり

旅人の事あり

一人の事あり

いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...
了れ

一人を連快毎如食物... 口を... 此海... 然る先...
あゆむ... 口を... 病に能く...
いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...

一人を... 口を... 此海... 然る先...
あゆむ... 口を... 病に能く...
いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...

一人を... 口を... 此海... 然る先...
あゆむ... 口を... 病に能く...
いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...

一人を... 口を... 此海... 然る先...

他... 口を... 此海... 然る先...
いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...

一人を... 口を... 此海... 然る先...
あゆむ... 口を... 病に能く...
いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...

一人を... 口を... 此海... 然る先...

一人を... 口を... 此海... 然る先...
あゆむ... 口を... 病に能く...
いもむらじり人の口を... 留る首海... 病に能く...

了如中 似後... 影... 之... 之... 之...

一 望... 了... 之... 之... 之... 之...

一 人... 捕... 之... 之... 之... 之...

此... 之... 之... 之... 之... 之...

一 之... 之... 之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之... 之... 之...

何... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

日

之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之...

之... 之... 之... 之...

あけつゝの年一二月

一 江成屋の所新江人同書此又ハハ別此人有ク人言ハシ其金三萬位
と云ふ所居ハ屋ハカカ今その多ク云ハク由白今今之由屋ハカカ
五ノ千在汚ハ位

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]



